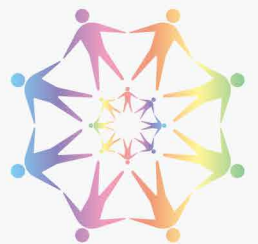


変化を創り続けることに会社の意義がある

より良い組織活動につなげる方法



昔と今は違う

世の中であることを知る

沖縄のみならず日本全体で少子化、高齢化、働き方改革など、10年前とは異なる世の中になっています。日本の人口は2018年頃から減少しています。これまでの50年間で1億人を突破していたにもかかわらず、2060年には8600万人まで少なくなり、高齢化率は40%を越えます。沖縄は2030年頃まで人口が増える予測が出ていますが、年々、高齢化率は高まっていることも事実であり、5人に2人が65歳以上になることが叫ばれています。

また、厚生労働省は2020年9月の人口動態統計の概況で「出生数は1899年の調査開始以来、最少を更新」と発表しています。つまり働ける人が少なくなるため将来的に不安が募ります。今ほど変化の著しくない時代は経験を積んでいる人が有利ですが、現在ではその変化についている柔軟性を持った人や企業が有利になります。生産人口（15歳から64歳）が減るなかで、いかに効率的に成果を残していく事業運営をしていくかが求められ、労働力の確保や生産性の向上が、重要なテーマになっています。そして、日本の生産性は2005年と比べるとマイナス成長です。また、2013年と比べて人手不足による倒産件数も3倍に増えており、50年後の労働力人口は4割も減

少すると推測されています。このことから一人当たりの生産性の向上は急務でもあります。

不景気と言われて数十年。企業に限らず「コスト削減」が叫ばれていますが、これは無駄なものを無くすのではなく、なぜ無駄かを共有・最適化を目指すといった考え方です。コスト削減をやりすぎてしまうと、会社に必要な筋肉までそぎ落ちてしまい、結果的に業務効率下がってしまったり、従業員の士気が下がってしまったり、離職者が増えてしまうといった事態にもなりかねません。

そのため、「とにかくコストを削減しよう」ではなく、「効果的な組織体系、最適な業務の割り振り、必要な策を熟考し、ぜい肉をそぎ落とそう」といった観点を持つことがこれからの組織運営に求められます。注意が必要なのは一気に対策を講じることです。シンプルに組織が不健康になります。段階を踏んで、従業員に周知したり、協議したり、代替案を準備したり、慎重に行っていくダイエットと筋トレの両立が大切です。

主体と参画が「シェアする文化」を会社につくっていく

新生活がスタートする人の多い4月。日本能率協会が実施する「仕事に対する意識調査」では新入社員に7つの傾向があると調査結果が出ています。

①上手いかなない経験から学びたいが、失敗はしたくない

②働く環境はとても大事

③プライベート重視で、無理なく仕事がしたい

④チームワーク&対面を重視したい

⑤デジタルとアナログは使い分ける

⑥自分には優しく、指導者には厳しく

⑦自分に自信はないが、人生は充実している

このような流れもあることを踏まえながら、「主体」と「参画」をキーワードと見ることが出来ます。仕事を通じて自分への関心を主体として、参画することの楽しさや豊かさがより一層、組織運営には必要です。自分が主体として参画することで、仕事に関与、貢献することにつながります。現代では、提供側にまわるか、消費側にまわるかのどちらが多いです。それだけ仕事が分業され、「つらさやプレッシャー」と「消費者人格」と「役割以外は他人ごと」を生み出しているのではないのでしょうか。

上司も部下も大切なホウレンソウ (報告・連絡・相談)

仕事にホウレンソウは大切です。筆者もあらためて「相談」は強力な手段と感じています。職場に限らず人間関係のある社会で起こりうる問題の多くは、相談することで解決のスタートラインに立つことができますし、相談することで人間関係

